

昭和三十一年三月十五日

第一回定例会(第五回)會議錄

一昭和三十一年三月十五日午前十時釧山市議会第一回定例会経統
市議会を千葉銀行北条支店会議室に招集する。
出席議員数三十五名その氏名左の如し

一番 石井 潔

二番 可世木 芳藏

三番 福岡保徳

四番 金 木久一

五番 秋山万次

六番 小 谷 無 達

七番 磯 辺 周 雄

八番 後 藤 巾 子

九番 山口 房 治

一〇番 大 野 清 五 郎

一一番 佐久間 爲次郎

一二番 山 本 昇

一三番 鈴 木 孝

一四番 飯 田 義 男

一五番 遠 山 田 木 子

一六番 脇 田 順 一

一八番 小 沢 太 助

一九番 石 井 平 次

二〇番 中 村 良 五

二一番 松 本 藤 太 郎

二二番 安 西 政 治

二三番 高 橋 文 治

二四番

萩生四七郎

二五番

田中忠藏

二六番

田中禄郎

二七番

伊勢仙之助

二八番

山口康

二九番

黒川佐太郎

三〇番

小沢恵太郎

三一番

田村喜兵衛

三二番

望月暉作

三三番

吉田勇次郎

三四番

嶋貫壮作

三五番

小浜光義

三六番

嶋田繁

一次席議員数一名との氏名左の如し

一七番

鈴木市藏

一、本日の議事日程左の如し

日程才一

議案才二三号

館山市税条例制定トフ

々

才二

昭和三十一年度館山市予算各款説明

(

議案才九号——十四号)

一、本日の会議の事件左の如し

議案二三号 館山市税条例制定について

議案九号 昭和三十一年度館山市大入大出予算

〃 昭和三十一年度館山市特別会計公益質屋大入

大出予算

〃 一二号 昭和三十一年度館山市特別会計国民健康保

険大入大出予算

〃 一二号 昭和三十一年度館山市特別会計国民健康保

険豊房診療所大入大出予算

〃 一三号 相洪

〃 一四号 布良

開会 午前十時五十分

一議長(石井潔君)申し上げます。 本日の出席議員数 三十四名

これより第一回定例会第五回の会議を開きます。

本日の議事は市手元に配布の日程表により上程いたします。

二四番(飯田義男君)議事に入る前に実は今日先輩議員から昨日の発言に対していろいろと御注意がありまいた。勿論私として議員の品位を失うような気持ちで発言したのではありません。私は農民の代表として余りにも奮激に耐えなかつたことはあるいはその内容の中に失言してゐるかも知れませんが何分不觸れのためにさういふ美があつたとするならば皆様の品位を流して申訳なかつたと思ひます。どうかお許し願ふと思ひます。

これだけ私達が心から願うある産業経済費として予算が市民に對する立派な予算でありさすよう十分お考えになつて下さいますよう併せてお願い致します。

議長(石井潔君)暫く休憩します。午前十時五十二分

(この用協議会)

議長(石井潔君)再申いたします。午前十一時五十五分、

今日の日程第一議案ヤ一議案ヤ二十三号を一昨日に引続き
上程いたします。

議案ヤ二三号、館山市税条例制定について

市長(田村利男君)一昨日より二十三号議案につきましてもは
いさく協議会におきましても御協議願いまうたが
要約すれば市が非常に赤字財政に困っております
ので何とか市長におきましてはこれを切抜くためにこの
条例を是非御決定願いまうて一段と館山市の
発展を計りたい、こういうわけでございますよう
しくお願い致します。

三六番(嶋田繁君)私は協議会にかつて大体述べたんですがこれ
を賛否を表現いたします関係上、もう一度申し上げたい
と思います。

それは、私はこの案は前提によりますが賛成いたします。
 その理由の一つとして、この予算に産業面が抜いて
 ある、これは実に重大な問題でありまして、館山市が発展
 するのも結局これが基盤でなくてはならない、これが抜いてある。
 従って市長が当初予算に抱負を現すべきであります。が
 抜けてあるということはこれを軽視してあるという、そし
 りはまぬかれないと申し上げました。が近き将来十分これを盛
 ったところの予算を出さるること、信じます。計数から
 みてみますと、これ位の計数からゆきますと、館山市予
 算はほぼ健全予算と思われ、しかしこれに止りま
 せん、今の重要性のある経費があるから、これではとどま
 りないと思えます。そう、た時には又不健全財政に近
 づくというふうな傾向があると私は感じます。従ってこの
 際は市長におりて相当な熱意を示さなくてはならんし

市民としても誠に大変であり、すけれども一つこの際忍んでいただくよう存するのであります。

このしこの所得税の方面におきましては基礎控除も大部引上げられましたので私の考えるところ多額の所得者というふうなことに望んでゆくことになり比較的、下位の者はまぬかぬように感得ておりますので、~~それ~~私も考えてまゐ止むを得ないだろう、こゝでもう一つ踏張りを願いたいと思ふのであります。

そうして額は今七、八十万でありますけれども、赤字克服いわゆる滞納繰越を使い果してしまつた上からゆきまゝとやはり重要な数字を示すと感ずるものであります。そして又市長の手腕も良くて承へております。館山市の再建はやはり市長のその方針でゆくことが最も取るべき道だと存じます。

それからこの赤字克服はその責任がどこにあるとそれ
を今追究しても詮方無いがこれは我々の時代にぶつか
ることを処理してそして右に弊害を残してゆくとこれは
やはり建設的の仕事であってこれはなうどぶつかうやう
ゆくと、という面白味もあります。

以上理由を述べまして賛成いたします。

三四番(嶋母貞仕作君) 私は十六%に上げず十五%にとどめ
たい。こう考えております。

その理由は今嶋田議員からいさぐ農村のこともあり
まうたがそれは恐らく十五%以内でやめると確信して
いる故に十五%を主張するものであります。

三番(福岡保徳君) 私は協議会の時に市長さんは私の
考えは間違っているように云われまうたが若し市長さ
んの考えている通りだとすると百分の十六を承認した

場合は五月に財政再建団体の指定を受けることを承認するといふ形になると思ふのが一つと止めたるすでんに百分の十五で二つ上りするといふ意味におもて最底の百分の十五でお願ひ致します。

二番(佐久間嘉次郎君)私は現在館山市で三千百万円の赤字を背負うてゐる而して市長が考えたい事業をこれから行なふんとするに當りまゝで監督官庁と起債補助等交渉する上におもて三千百万赤字があるに租税は取るべき余裕があるやなせ取るなといつて赤字を解消するからとく監督官庁の意見も出まゝで恐らく今後の新しい事業の開始発に非常な支障を来すと思ひますので原案賛成いたします。

三番(望月暉作君)私は前の市会におもてゝ反対を意見をも申し上げましたが今後滞納問題等整理に相当支障が

あると確信するものであります。が、その点について助役さん
に県に行つて貰つたその結果は別に法の拘束を受けないと
云われまして、たゞで私はあくまで百分の十大に反対いたします。

(休憩の声あり)

議長(石井潔君) 暫く休憩させていただきます。

十二時六分

再開させていただきます。

十二時九分

議長(石井潔君) それでは午前中の会議をいれて打ち切りまして

午後一時再開ということといたします。 十二時十分

議長(石井潔君) 午後の出席議員数三十三名、これより午前

と引続き会議を開きます。 午後一時三十七分

二十三号議案につきまして、は相島論議が少く、ありま

が、尚他に御意見等ございまして、御用陳願いたします。

一八番(小沢太助君) 運営委員会といたしまして、本議事進行

について御意見を申し上げます。

本案に對し、まゝは十八番議員の議論が本意をあらわして運営
委員会と見えてゐる。では努めて満場一致の姿で円満裏にこれ
を決定したいと思ひます。故にのり努力したいと思ひます。こ
うすば遺憾なことはない。その議論がたまにせんので、これ以上議事
を引伸すことは、今後の議事運営に支障を来すと思ひます。す
で、今後の一切の審議を打ち切りまして、表決により
決定したいと思ひます。

(賛成の声起る)

議長(石井潔君) 只今十八番議員の動議に御賛成の方が相当
多いと見受けました。十八番君の動議は成立いたしました。
議長は採決により賛否を決定いたしました。と思ひ
ます。この市税条例の改正案即ち三十四条の所得割の税
率は百分の十八とする。これは百分の十五としようという
御意見と百分の十八とするという所方の御意見があったの
でございますが、この百分の十八とするという御意見に決

の賛否を表決によつて決定いたします。

議長(石井深君) 暫く休憩いたします。午後一時四十一分

再開いたします。

議長(石井深君) 先程三十四番議員、三番議員、三十二番議員の御意見は百分の十五にするという御意見でございますが、先ずこの百分の十五にするという動議に対する採決をいたします。この修正意見に対して採決の方法といたしまして議長におきまして起立によつて採決したいと思ひますが御異議ありませんか。

異議なしの声

議長(石井深君) 御異議なしと認めます。

よつて原案の修正いわゆる百分の十五を百分の十五にするという御意見に賛成の方は御起立願ひます。

起立者 八名

議長(石井潔君)出席議員三十三名の内修正意見に賛成の方は八名でございます。よって修正意見は否決されました。続て平三号議案原案に対する採決をいたしたと思います。います。本表決に対しては御起立により採決をいただきます。と思いますが御異議ございませんか。

異議なしの声

議長(石井潔君)御異議ないと認めます。よって起立により採決を取ります。原案に賛成の立は御起立願います。

起立者 二十四名

議長(石井潔君)起立者二十四名 起立者多数と認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君)暫時休憩いたします。午後一時四十六分再開いたします。午後二時〇分

議長(石井潔君) 日程ヲ二各予算案の各款説明を行います。
議案ヲ九号及至ヲ十四号を一括上程いたします。

尚各款の説明について はなるべく簡潔に御説明願います。
秘書課長(山谷恒祖君) 議案ヲ九号及至議案ヲ十四号の内
特に九号より十二号議案について人件費が盛られてお
りますのでこの予算議案の中一般合計のみについて説明
させて貰います。特別合計につきましては質疑応答の時
に説明いたします。

慣例によりまして支出の人件費から説明申し上げます。
三十一年度の一般般会計の人件費総額は九千三百八十九
千五百六十円でありまして人件費は各款に渡りあり
ますので総括説明いたします。

この人件費の総額は統予算額の四十二%を占めるもので
ありまして三十一年度当初予算の人件費九千八百五十千

三百九十円に比較して約百二十万四千円の増となるのであります。市におきましては財政逼迫の現在、逐年人件費の増高を憂慮しましてこの打開策として高令職員には退職を勧奨し、又欠員不補充の方針を取つて来たために市役所費におきましては九十二万円の減を生じ、その他諸支出金においては七十五万円の減を来たしたにもかかわらず、二十九万二千円の増となり、またりはその重なるものとして、ましては教育費の百九十一万円増、消防費に九十八万円の増のためでございます。

これを内容的にみますと、一般人件費におきまして昨年度著しく増額になったものは、期末手当の増額でございます。これは昨年当初予算には、期末手当、勤勉手当の合計で二十割計上したのでございますが、去年末におきまして法律の改正に伴ないまして市の方で二割五分増になり、これを追加計上したのでございますが、本年は二十二割五分というものを当初予算に計上

したために殖えております。

又、教育費は学校の増設等により殖えたものでございますし、消防費は富崎分遣所の設置によりまして、当然殖えるべきものと思われます。

右のような理由があるにもせよ、財政全般の人件費の示す率を考へるならば、今後においても相当関心を持たなければならぬのであります。幸と申しては、取員に對して申訳ないのであります。すば政府におきましては、地方公務員法の一部改正法案を去る二月十一日提出し、現在は参議院で審議中でございまして、この法案が議決となりました場合には、この法律に基きまして、地方自治体とも、常年制を定めることが出来ることとなりますので、市も常年制を定める意向でございまして、しかし、現在法律の通過しない内に、従て予想して人件費を削除し、少く計上するといふことは、取員に對甘んじまして

不安な気持を与えますので予算の編成方針としてしまして
これは昨年も本年も変りありませんが各個人への給与
条例に基づきまして一応定期昇給するものと仮定して予算
の編成に当りましたところよく予算編成をいたしますに
総務課の方の集計に至った時に人件を少くして貰いたい
という交渉があり昨年は勤勉手当を減額されたので
あります。本年も同様に減じたのであります。

長くなりますので細かくは質疑応答の時にお答えいたし
たいと思います。簡単でございますが

総務課長(完戸貴君) 三十七頁 議会費について御説明
申し上げます。

議会費は全体の三%に当るのでございますが前年より
二十八万余り増を来しておりますが調査研究手当の
計上がその原因でございます。

次は市役費としましては四十一頁でございます。

市役所費は全体の二十二%に当るもので四十一万九千円
余り減じておりますがこれは又今秘書課長から説明の
ありました取買給の減分によるものでございます。

次は四十三頁十四節の印刷製本費でございますが四十五万
円計上してございますがこの内市条例規則等の印刷代とし
の十五万円は現在市条例の完全なるものがございまして
これを一冊一千五百円で二百部印刷いたしました事務上の
参考にとしたいたと思います。

次に二十五節の修繕料にあつては五十八万四千円計上
いたしました内自動車等の修繕料として三十八万円計上
しましたがこの内現在二台自動車がございますが月二万
二千円の修繕料として計上したものでございます。

次に二十五節の備品費の内方用器具費に十八万四千円

計上してございますがこれは現在タイプライターが非常に古くなり
ましてこれを一台四万五千円といふ計算器を一台三万五千円
その他片用器具を購入したいと思つたものでございます。

次は四十五頁公平委員会でございますがこれは前年と同
額のかを計上されました公平委員会制度はづの改正とい
うと思ひますが取敢えず現行の制度とすまゝして委員報
酬を計上されました。

次に五十一頁の消防費とフイ御説明申し上げます。

消防費は今年度一千五百千円九万四千八百二十円の予算
を計上されましたがこれは總体の七割に当ります。

昨年度より六十二万三千三百七十円の減を來れてお
りますがこの昭和三十年度にかきまゝして消防団の
一大変革をされましたその結果退団者が出たその
経費を除いた結果でございます。

内容的には富崎倉遺所の設置に伴なうとして専任署長
を一名消防士を大名を採用したい。このうふうと考えま
して内容的に考えますとそれ等が変つた点でございます。

建設課長(新井重助君) 五十九頁 土木費より御説明

申上りです。土木費は一千三百六十一万三千四百六十
八万円の予算でござりまするがこれは前年度に比し百四
万三千七百三十九円の増加となっております。

道路修繕料としまして百三万五千三百円を計上し道路
橋梁の維持保全に万全を期して参りたいと思ひます。ト
次に備前費でござりまするが補修用の砂利等の運搬に現
有自動車では手不足となりますので今回自動車を一
台購入するため五十万円を計上して参りました。

それ以上と異倉地先にあつたトグラ橋は現在仮橋で
ありまして腐朽甚しいので交通が危険な状態であり

ますので、架替えをせよと思ひます。大見物地内にあります
遂道が非常に地盤が軟弱でありまして、交通等危険であ
りますので、一部コンクリートで補修したと思ひます。
その他の市道改良工事は市単独事業を国の補助金を
得る、いわゆる失業対策事業に折込んであります。

果道改良工業は毎年継続して執行中でございまして、本
年度にあらましても伊予神余地先の工事を着工の見
透りでありますので、市負担分を十万円を計上しました。
蒲南港であります、館山港、又三種瀬港であります。
船形港の修築工事は毎年継続してまして、施工中で
ありますので、昭和三十九年度は館山港が千二百万
船形港が一千万五百万の予算でありますので、その負担
金として六百六十五万円を計上しました。

尚水道費におきましては従来通り使用人口が百四十七

ござうまゝにして、それ等給水設備の保安維持と云うふうな
な目約で百十萬七千五百円計上してございます。

尚六十五頁の都市計画費でございます。これは昭和二十七年
より着工してござうまして現在一中まで完成したして
あります。これによりまして局部的に非常に利用される
ようになりまして附近の土地も非常に値上りを来す等非
常に効果が現われ、あります。が本年度は北条より
八幡岡千二百米を改修する予定でございます。

これを實現するのために、果当局あるいは建設省都市
計画課陳情しての實現に努めてあります。又これを現在
の市道より海岸と申してゆく、こゝうのことになり、あります。

急速に實現のために、今年度四百九十八万円計上をいたしました。
尚県立公園城山公園は観光上特に必要であります。が
今年度におきまして登山道路の五百米の實現を期し、こゝに一応

予算を計上いたしました。

尚、二十九頁の失業対策事業費がございます。これは前年に
比し、一五十一万余りの増加となっております。本市内の失業者
日々三十人をも雇いまし、私業を与え、あるいは生活の安定を計
るために起す工事であり、まゝその使用人員は年、由、九千
二十五人を使用いたしました。等の労力を有郊に使ひ
まゝ、市道の改良工事を施したいと思ひます。

その工事箇所は全部で大ヶ所ございまして、その詳細は
都市計画事業に一部流用いたします。その他、藤原地
先等でございます。合計三千百五十八米で改修する予
定でございます。以上申し上げ、まゝ経費の合計を考えま
すと、国県の補助金が割合ハナカクとなっており、ます。
以上簡単でございます。が、土木費都市計画費の説明
を認ります。

教育委員会庶務課長(鶴沢貫寛君)七十一頁七款教育費について

その説明申し上げます

教育費の総額は六千二十七万九千六百五十円で市大出の最高を占めております。その中大別しますと人件費が三四%、事業費が四十一%、物件費その他がニ十五%という率となっております。

そのうち教育委員会費におきまして委員報酬は十月に委員の改選がありますために十一月以降は構成委員四人として計上してございます。

委員会の取員数は十七名他に嘱託一名置いてございます。七十一頁に参りますので、需用費が減額となっております。

指導行政におきましては少ない予算ではあります。文化系統理科系統各一名の教科指導員によります指導と研究会等により向上に努める計画でございます。

七十一頁二項の財産管理費は学校等の借地料と建物物の
火災保険料でございます。保険金総額約二億円でござい
ます。七十五頁の才三項教育費におきまして人件費
は校長以下十五分の給料諸手当と学校医四十四人分の
当を計上してございます。

三目の需用費は児童一人当り六百九円で昨年の二割
を削減してござんたのもを別途として計上してあります。
七十七頁の才四目は学校図書館法に基く国庫負担の対
像になりますもので一校六万円四校分も見込みました。
その二分の一が国庫負担金として交付されるものでござい
ます。才五目の公立学校理科教育設備費も同様でございます。
一校十五万円、二校分でございます。

才六目の内二十三節修繕費の百万円は校舎の屋根その他
の修繕料を見込んで計上してあります。

二十四節の工事請負費は館山小中学校六十坪百八才内
那古小中学校八十四坪三百二十才内計上いたしました尚館山
小中学校講堂改造は講堂を一部教室とするための改造
費でございます

次に頁をめぐりまして二十八頁四項の中学校費にかき
まゝして人件費は学校使丁六人分の給料諸手当は教
員二十七人分の教匠手当でございます

三日の需用費はやはり小中学校費と同じく二割削減した
いものを計上いたしました

二十八節の施設費としまして敷地三千四百坪を購入
するものでございます

次八十頁中四目の八万四はこれは一校分を予定してい
ります。五目は理科教育の設備費ですがこれも
一校分の予定でございます

大目の事業費の平定節は小学校費と同じく屋根等の修繕費
でございます。

二十四節の工事請負は中學校増築工事三教室八十坪
分二百八十万円、中學校増築費これは三中の分でございます
が八教室二百四十坪他に便所十六坪で七百二十八万円、免
陸校舎改築事業としてしまして西岬中學校三教室
九十坪分二百五十万円、中學校八十坪二百万円他に
房南中學校屋根葺替え四百七十坪分五十万円を計上
してしまふことにした。

八十一頁の五項 高等學校費における人件費は校長
以下二十三人助手二人事務取員二人計二十七人他に時間
講師七人使丁一人中學校五五人分でございます。

尚全日制十三學級六百七十五人定時制八學級二百二十人
でございます。

頁を減くりました。八十二頁。又四日需用費中二十五節備品費に一学級増によります。机腰掛の購入費代六万六千円を計上しました。他は大体前年度と大差ございません。次に大項幼稚園費における人件費は五割で二十八人使丁二人園医十人分でございます。

八十四頁。又四日需要費におう前年より六万七千八百円の増となつております。これは神戸幼稚園が年度中途におう教置されましたもの。その関係の増額でございます。八十六頁。又七項公民館費における人件費は前年通り主事一人館長一人副館長五人副分館長十人公民館審議会委員二十七名分館審議会委員三十名書記七人分でございます。

公民館費は前年度に比しまして九万六千七百十円の減となつております。これは移転的経費の削減と諸経

費の節約に努めてあります。

八十八頁の青年学級費は前年度に比し増え、増加して
あります。これは人件費、需用費、又大体去年と大差
ございません。

九十九項図書館費におきましては二十五万五千五百円、備品費におきま
して四万五千円、購入費を増額してございます。

九十項社会教育費におきましては事業の性質上移転的
経費が三分の二以上占めております。今回の移転的経
費の削減が大きな支障を来してあるわけでございます。

九十項体育費における人件費はプール看守人一人分
あります。需用費はやはり体育関係の行事の性質
上、これも移転的経費の削減が非常に影響してありま
す。体育行事が実施困難の状況にあります。

九十五頁の営繕費、九十五頁でございます。これはプールの

周囲に柵を廻すという、旧軍用建物を合宿所に改造するものでございます。以上で簡単にございすか説明を
終ります。

福祉事務所長（長谷川 広治君） 九十五頁の社会および労働
施設費に、御説明をいたします。総額で百四十八万五千
円、増額という事になります。このうち主なものは生
活保護費が本年度二千三百九十三万五千円、増でござ
います。昨年度より二十五万九千円、増増額ということ
になります。これは一月末の保護人員を積算の基
として、新しく開始する世帯、それから思給年金等
とか、そして廃止である世帯を勘案しまして、年間のハ
の増と、こういう積算の基礎で、積算をしております。
また大部分のものは医療扶助が大部分を占めておりま
す。九十八頁に入ります。民生委員費については昨年度

と大差ございまして、三日の児童福祉費のうち一日二日三日については昨年とは大差ございしません。四日の児童措置費については四万八万三千円増額ということになる。これは四月一日認可になります。市立保育園に対する分を精算をしまし、しましたので他は大きな金額はございしません。

四項の保育所費については大差ございしません。まだ七十九万の工事清買費として、館野保育園が五十万の建設費を計上してございます。これは現在小学校に借りて使用しておりますわけですけれども、この関係から今年度五十万程度のものを新設をしたい、こう考えて計上をするわけでございます。建築坪数は約三千坪でございします。百頁に入ります。五の身体障害者増援費、福祉事務所費、これは昨年は大差ございしません。

七項の福祉事業諸費にあたりましては補助金の削減のために

三才ばかり減額してあります。ほかは大差ございません。
以下八項九項十項とも多少の増額はさけてあります。
けれども特別に取上げて御説明するものはございません。
以上です。

厚生課長(羽山 芳雄君) 入款保健經費につぎまして御説明します。
百七頁保健經費について御説明させていただきます。

全体の約二割でありまして今年はその年に比して三十三
万七千五百八十八円の増となっております。本年度は
公衆衛生の面に重点をおきました。なお予定衛生の
面につぎましても昨年四月結核予防法の一部の改正により
まして若干の増額をいたしました。そのほかは大体前年度を
踏襲しました。

百七頁一項の健民費につぎまして御説明いたします。
これは保健所が行いますところの県主催の優良乳児

の表彰の副賞代を計上したものであります。大体前年
に比しおいて、七〇%の減額となつております。同じく百七頁や
二項予防疫種費、大体これは年間に要する予防疫種の医師
の雇上げの賃金、百八頁内として計上されました。
なか予防疫種意欲の向上によりまして、薬品購入に約二五%
の増額であります。大体これは前年と比べまして、一六%の
増額となつております。

次に百八頁三項の伝染病予防疫費、これは県費補助の
対象にありますが、関係上、大体このなかで自動三輪車の
分がありまして、そのうちを初四項の隔離病舎費に本年移し
替へました。計上するのを替へましたので、大体この経費が
大五%減額となつております。同じく百八頁四項隔離
病舎費、三輪車を購入しましたほか、長須賀にあり
ます旧市の隔離病舎の事務室、使丁室等、この一般

とは非常に老朽とされており、危険であります。下
本年度この建物を取壊しまして、新たに市常住宅的な
十坪内外の簡易な建物を建てようとするものであります。
大体五、六年前までの最盛期年間の入居患者数を見込
まして本年は五人患者を見込められたが、大体五、六分の
増額となっております。百十頁の五項、結核予防費
については先ほど申しました健康診断の対象人員が範囲が
広くなった関係上、医師の雇上げと薬品、この分は増額
となっております。約二〇%の増額でございます。

同じく百十頁の一場費におきまして、この一場費については
前年一部の施設を改築建設いたしました関係上、本年
は取りあえず危険にありますが、この牛馬の巻上げ
の修理だけに修繕費をとらめまして、大体前年の計と
ほかの分については前年と大差ございません。約この分は

三〇%の減額となっております。百十二頁中七項火葬場費、
こいもと場も同じように前年屋根の大修理を差しまして
本年度は内部の壁のぬり替程度に終らせたいとこころ
考えて組んだものでございます。こいも約三〇%の減額とな
っております。百十二頁八項狂犬病予防費 こいも前年より
犬税不創設となりましたのでこいもに伴う脱税および脱税
行為と申しますべ登録事務の強化を図るために野犬
等の費用を盛りまして、百五〇%の増となっております。
人数を一人前年度から増えました五人とりました関係上諸
経費の増額と、なか雨期に入りますり作業用用具の購
入費、またこいも新たに公衆便所を一所、一むね こいもは
ブロック建 約三坪のものも上費十百一千円下予定してか
りますり建設する予定下あります。約五五%の増
額となっております。百十五頁の新二項衛生費こいも存

目とく計上となりあります。以上

農産統計課長（高木哲三君）百十七頁産業経済消費にフイ
御説明申上げます。産業経済消費の農業委員会費
農林費、それら土地改良費で本年は移転的経費の節
減によりまして四百四十五万円減となりあります。

百十七頁の農業委員会費は昨年と大差ございません。
それら農林費でございます。三百万円減となりあります。
がそれは負担金補助金の減によりまして、また数字でござ
います。百五十三頁の土地改良費でございます。これは百五
三万一千円の減となりあります。これも負担金および
補助金の全面的削除によりまして、これだけの減となり
あります。これは昨年と同じであります。

商工水産課長（吉田耕一君）産業経済消費のうち商工水産費に
フイ御説明申上げます。高工費、水産費にフイしては申さ

るところはございせん（笑声）しるなばうござるだけ、私り努力
と創意工夫によりまして、こんどとも努力を盡したいと考へて
あるわけでございます。つぎに観光費でございますが、観
光費に於ては、五十八万七千余円の減でございますが、
これもやはりそうした減によるものでございます。

（説明のないところが）所あるが、観光費と呼ぶ者あり）
とくに本年度繰上りする莫大の額は、房総南部海岸の
国定公園の指定をせむとも、本年度中に受けたいと
いう考え方をしております。なおそのほかにつぎまゝは
先ほど城山の南苑整備に付しましては、建設課の方から説
明がございましてしたので省らせておきます。大体、それ
以外には昨年度ととくに変わった莫大の減はございせんので、あ
は御質問にお答えをさせていただきます。

総務課長（宛て貴君）百二十九頁十一款の財産費に付し

申上げます。財産費は昨年^{年度}に比し若干、百五十万五千百
十三円増になつております。これは本年から千葉銀行の
北条支店の買上代金百五十万円が加つたためでございます。
なお施設費のうち国有林野払下代金三十四万円がござ
います。これは二十九年度の国有地を払下げました四年
賦のうち、本年度の支払額分であります。

農産統計課長（高木哲三君）　つぎは百三十一頁の統計調
査費について御説明申上げます。本年度予算算三
十万八千二百二十円、昨年へる十三万五千円減になつております。
これは本年度は国勢調査とそれから市勢要覧を二
天関係で引いた減つております。あとは三十九年度
と同じであります。

還管事務局長（岡崎鬼吉君）　百三十三頁、還挙費について
申上げます。還挙費は昨年県会議員還挙と市会

議員選挙がございまして、今回これがなつたりまして、六月に執行されますと、その参院選挙費とそれから八月に執行されます南部海軍復興業調整委員会委員選挙の費用が加つたものでございまして、他にはさしたる変化はございせん。統務課長（完子貴君）　つぎは百三十九頁公債費は四千万二千円の減でございます。これは償還金額によりまして、毎年償還するかに変化がある結果でございます。

それから百四十一頁一時借入金、利子とつぎましては二千五百万円、五、大体三百六十日借入するところ、日歩二銭三厘の割合で計算したものでございます。つぎは百四十三頁、十五款の諸支出金のうち、今日の訴訟費と、それから百円を計上してございます。この訴訟費は現在係争中でございまして、伊沢さんの訴訟が一応三月で終つるという見通しで、ここに存目を計上したのでございまして、現在の状況では四月五日にまた裁判が開始するところ

関係でございまして、その場合は追加によるか、あるいは予備費に流
用を求めるとございまして、考えがかります。次は百四十六
頁、過年度支出金でございします。最後の欄でございします。が
五、四百円を計上してございします。これは最後各法人の所得税の更
正減額による通知が年度通以下、税務署から参りますので、その
場合の過年度市税の還付金を一応計上をいたしましたのでござい
します。それから、それから百四十九頁、予備費は本年度三百万円を計上
いたしました。これは大体一%強に上る額でございします。
以上で一般会計の歳入の説明を終了をいたします。

議長(石井 潔君) しばらく休憩をいたします。

午休

再開をいたします。

総務課長(完戸 貴君) 歳入について御説明を申し上げます。

市税は本年度一億三千九百七十七万六千七百七十七円でございます。

準により計算せしめ、基準財政需用額は一億二
百五十九万六千円、同額収入額は七千五十九万六千円になりま
す。三千二百万が交付税額、このうち計算がおよそ一
千を計上せしめ、千を計上し、なか特別交付税は当初予
算に計上しないようにとの指示でございまして、この額は計
上してございせんが交付税金般から申しまして、最終的には
この予算に計上額よりは増減をすることはないと考え
ておるのを記します。つぎは十五頁でございまして、公営企業収入
として三百万円を自動車運転収入として見込みました。
これは本年四月を除きまして、通例一回補償が可能になると
いうことと、千を計上するが、松戸を二回として二百四十万円、千葉
を一回補償するとして、六十万円を計上せしめたりでございま
す。つぎは十五頁使用料および手数料、これにつきましても
本予算の付記なるに説明書にいろいろ記載がございませ

の予内容説明を省略させておきます。それから十七頁國庫
支出金は本年度三千二百八十九万二千円を計上しております。
これはそれから支出に伴います。國から交付されるものでござい
ます。この付記なるとに説明書によりまして御承知を願わ
いたしと存じます。二頁の果支出金に五万五千円も同様でござ
います。それから二頁の七款の寄付金のうち土木費寄
付金とレリ道路増築費の寄付金は五十四万円計上して
ござりますが、これは戸倉橋の分が十六万七千円、それから一般
増築の分が十六万七千円、それから他の寄付金が十六万七千円、それから
城山の道路整備費とレリ地元から六万六千円、それから富士
橋の修繕とレリ地元から五万四千円、小原橋の修繕料とレリ
地元から一万円、これらがござります。

なお、農業対策事業費寄付金と並しましては七十一万六千円
計上してござりますが、これは事業費三百五十四万七千円から

国庫補助金の千八百二十円を除いたものに対しする四分の
一のものでござります。 千八百二十円、三十頁の雑入のうち

二節の市税滞滞金と千八百八十二円二十円を計上し、千八百

八十二円は現年度分として千円、百万の千五百円、これに対

するものが百十五万二千円、その他は繰越金として百二十万円の

三百四十五日分として百八十七万五百万円を計上したのでござ

ります。 千八百八十二頁でござります。 千八百八十二頁のなかには災害

復旧資金貸付金、返済金として四十万円計上してござ

ります。 千八百八十二頁は富山県時代にござります。 富山県で災害

の際、千八百八十二万円を災害の復旧費として借り、千八百

八十二万円は公営物の災害に充てないで、村民に貸付けたもので

ござります。 現在千八百八十二頁の貸付代金が五十七万四千円残っております

が、うち三十万五千円は三十一年度で徴収したものと考えをい

ます。 千八百八十二頁は三十一年度で徴収したものと考えをい

では三十五パーセント市債におおまけは一千七百五十万円を計上してござります。これは必ずしも事業費に伴う必要財源として税統するものでございませう。その内容の詳細につきましては説明書に記載がございますので省略させていただきます。以上でもちまして一般歳出歳入の支出入予算とついでの説明を終ることにさせていただきます。

三三番(吉田勇次郎君)恐入ります。交付税にフイーもう一度御説明おねがいしたいと思います。

総務課長(荒戸貴君)交付税は一般の算定基準を不変にしまして、それによりまして基準財政需用額が億二千五百九十九万五千円というようになります。そして基準財政収入額が七千五百九十九万五千円というようになります。基準財政需用額から収入額を引きますと三千二百万が本年度の地方交付税としまして予算と計上をいたします。

厚生課長(羽山房雄君)百五十三ページ特別会計公益質屋
について御説明をいたします。公益質屋は昭和二十六年
に開設されました。その後昨年度三十年度に延びま
富崎地区へ一ヵ所増設されました。大体をだします
のことは、運転資金の関係で年度の途中で貸付金を
制限したりあるは停止したりしたような状態であり
ますので三十年度には一応この起債による借入の金
を期して、なか前年は一級会計からの繰入の五十万円を
繰入しておりますが本年もいは同様見込の繰入の五十万円を
いけば年度内に五十万円の追加をせねばならぬまの
ような中途で資金難に陥入るような方法にもう
行きたい。という考えでこの予算を算定した
簡単であります。然るの説明で終ります。

保険課長(宮川爲三郎君)百六十一頁国民健康保険に

まして御説明申し上げます。本年年度の総予算にかまをい
前年度より約七百万の増でございす。二いは昨年十二
月全市の施行を止めたのでございす。百六十五ペーシ
の支出から申上げたい行をいす。才出面に総予算の大体
一%が改所費でございす。

といへる保険給付費に對しましては八二%その他の起首
普及費その他諸支出金が大體七%となつております。
以上のようになすは内容でございす。

才二款の保険給付費に對し御説明申し上げます。

百六十五ペーシでございす。保険給付費の総額は二千七百

八十三万一千七百五十円。これは年毎一人当り五百八十八円。そして

三万九千五百人を基準率としていす。給付費の額を算

定してました。付託にございす通りと療養担当が

扱い一般の扱いかでございす。とといへる道

診療所に支払うかとの内容は二つに別れてあります。
それからここにこの過年度かについてございすが、最近の審
査の状況によりまして請求書が果の審査会の方に来
りまして、担当期間が遅れて参ります。その関係上
過年度かとして大体一か年分、平均して一月半ぶりの
ものを算定したものでございます。つづのページの二頁の
療養費、これは主として柔道整復師の治療を受けた
場合あるいは契約以外のお医者さんの診療を受けた場合
の療養費の支給でございす。これは被保険者一人当り
十八月七十三銭の割合で計上してあります。つづは
助産費、助産費は出生率を千分の十四とあらえい
てございす。それから葬祭費は死亡率を千分の七・五
までは千四銭の趣旨普及費について申上げます。この趣旨普
及費の八十五万七千円は各地区に協力組合を設けり

でございます。この協力組合の助成費でございます。とくに
三十一年度はこの協力組合の育成に努力をせしめて保険
料の収納の万全を期し給付の万全を期したいところであ
ると思います。それからつぎのページの七款諸支出金
ニハ、三十九万九千八百七十円は果樹産会ならびに支部の
負担金でございます。以上をわけて支出を総ります。
才入に付て申し上げます。百スリーページ保険料としまして
二千五百万六千五百五十円、ニハは先ほど申し上げました療養費
の一人当り十八円とそれから保険給付の一人当り五百八十
八円、合計一人当り七百六十八円の医療費に對する三十九
千五百人分とのなしまして、収入額は二千三百九十五万六
千円（かういふ説明して下さうと叫ぶ者あり）被保険者
一人当り六百七十九円、被保険者三十九万九千五百人分二千三百
九十五万六千七百五十円（六百円が市当り、七百円が本當

予算は七百円といふと呼ぶ者あり。八百七十円といふ
ます。それから助産費、薪炭費、その保険給付費の
総費用二千四百三十三万一千七百五十円を必要経費とい
します。そのうち繰入金の百万円を引いた二千三百三十三万
一千七百五十円をその付記の通りの賦課割合によりまして
徴収をしようと思つたのであります。

それから過年度の保険料百六十六万八千円、これは金
をあげて徴収をしようといふと、よく努力をしようといふ者も
あります。そのページの五款、国庫支出金でござい
ます。七百七十九万一千円、その内訳は事務費に對する
補助、保健婦に對する補助といふから助成交付金で
ございます。その八款の繰入金でございます。

繰入金は百万円、以上申す通り、それが保険料の收入
は、総予算に對しまして七四%といふから、国庫支出金が

ニミカヨの他雑収入とか繰入金が三%と、なっております。

以上をもちて説明を終ります。

豊房診療所事務長(宮宮兼次君)豊房診療所の説明をした
します。百七十九頁をおねべします。前年と比し三百七十二万

八千円の減になつておりますが、これは財源の關係上生じた
ものです。本年度は人件費に四三%、事務費に八%、医
療費に三八%、その他に五%、大体この程度で予算を組み
ました。医療費の三八%のなかの備品の内従事使用レ
ておりますレントゲンが小さいので本年は三百より程度の犬
きなものを買いたい、というて、建前から計上したしました。

才出の方では大体この程度でございます。

診療収入八百七十五頁でございます。市内の国保の収入で
百五十二万八百五十円、その他の保険、他町村の国保、健保
給損予防費、一般診療で三百七十五万八千七百円を計上した

しました。一部負担にあり、百五十二万八千五百十円を計上
しました。使用料におおまけに、九千五百三十円、前年
からの繰越、六十八万八千円、大体以上でござります。

総務課長(宛先貴君)議案、オイ、オと、オ、オ、オ、オ、両方
関連をします。が、合せて、御説明申上げます。

百八十七頁と百九十三頁に付いてあります。本年度
相次財産区と布良の財産区、オ、オ、オ、オ、予算を提
出しました。が、ごいます。が、財産区にござります。地方自治
法に規定せしむるにござります。財産区の議会または
総会を設けて、財産の管理を議決する、ということになつて
おります。が、この財産区にござります。は、現在、そう、オ、
バ、ごいます。で、市長、バ、管理、オ、オ、ごいます。

相次、財産区と布良、財産区、現在、所有、オ、オ、
土地は、宅地、四、千、百、八、十、坪、二、合、八、勺、畑、が、五、百、十、大、坪、森、

が百四十五坪 原野が二千九十三坪 雑地八千六百八坪 合計
一万五千五百二十五坪二合八勺 とうり膨大な土地を持つてあ
るのうが、さういふが、どの土地に、つぎまゝは長い間、この富崎
村に、おさまるゝなんう適当な措置をとることなく、現在、い
やれ、人の勝手に、やういふ状況でございます。市におさま
しては、いゝも、なんとか、いゝ整備、せしめたい、こういふふうを考
えて、さういふ新年度に入り、まうか、この解決を、図りたい
と、考えて、あるのうございます。こゝで、現在、提出、せしめた予
算と、せしめては、市、民、財産、区、分、が、四千二百八十、五、百、の、い
かゝる（「上向きに、なう、御説明、ね、いゝます」と、いふ、あり）相
決、財産、区、分、が、四千、六、百、一、十、月、で、ござい、ます、が、現、在、二、の、財、産、に
つぎまゝ、いゝは、収入、税、が、保、管、と、いゝある、の、う、で、ござい、ます。内、容、は、全
まう、は、願、が、いゝ、さ、い、の、で、せ、し、ま、る、説、明、を、要、す、る、個、所、が、な、い、と
考、え、ま、し、て、省、略、し、て、ま、さ、さ、す。外、花、月、の、いゝ、外、日、提

果月

助役(小出武男君)以上もあまき本日提案をいたしました
予算の各款の説明を終つてをたふす。

議長(石井繁君)申上げます。本日のお議事は、
て散会をいたします。次回は三月十九日午前十時開会と
いたします。その議事は各予算案に対する質疑を
行います。従つて。十六日。十七日。十八日は審査のため
本会議を休会をいたします。この休会中に明十六日は
午後二時決算審査特別委員会、十七日は午前
十時総務委員会の開会となりあります。
以上でござります。

